

ストリートから東京の今を伝える情報サイト



JFA 「style-arena」 Report 2014 SPRING

www.style-arena.jp



2014年 春のストリートスタイル総括レポート

www.style-arena.jp

目次

(1) 地域別ファッションの特徴（原宿 渋谷 表参道 代官山 銀座）	-----	3
(2) 2014 SPRING Trend Rankings TOP1	-----	4
(3) 2014 SPRING Trend Rankings TOP2	-----	6
(4) 2014 SPRING Trend Rankings TOP3	-----	7
(5) 2014 SPRING Trend Rankings TOP4	-----	8
(6) 2014 SPRING Trend Rankings TOP5	-----	9
(7) 番外編 注目のトピック	-----	10

TOKYO
STREET
STYLE

地域別ファッションの特徴

東京のストリートファッションを観察し、発信しているwebサイト「style arena.jp」。原宿、渋谷、表参道、代官山、銀座という、テイストが異なった5つのエリアのストリートスタイルを掲載し、リアルなファッションの動き、流れを伝えている。現在は以前とは違い、地域別ファッションの特異性というものは薄まりつつある。それはどの地域に足を運んでも同じようなブランド物を購入できるようになったり、ファストファッションがここ数年で台頭してきて皆それに依存している点などが挙げられる。しかし、それでもまだ地域毎に根付いているファッションスタイルがあって“違い”を感じる事ができるのも事実。それをこのレポートで伝えていきたいと思う。

原宿

HARAJUKU

原宿は、世界的にも独特なスタイルで有名。ファッションバランスや感覚に優れた若者が多く、モード、カジュアル、トラッドなどを融合した、よい意味でセオリーを無視したスタイルを生み出している。

また、原宿は東京で一番古着屋が集まっている街。ほとんどの人が古着を取り入れたスタイルをして個性的なファッションが見られる。これからどんな新しいスタイルが生まれるのか、とても楽しみな街だ。



渋谷

SHIBUYA

流行の移り変わりが最も激しい街。流行のブランドに集中した結果、似たようなファッションスタイルをよく見る事が多い。それは109系ブランドにファストファッションブランドを組み合わせる人がほとんどだからだ。

“流行はあるが個性がない”のが渋谷。しかし常に新しい物を求め、敏感に探し、纏っているのが渋谷だ。この街を見れば、日本の女性の“今”が分かるのかもしれない。



表参道

OMOTESANDO

ハイブランドの路面店が並ぶ表参道では、集う人々のスタイルは特に洗練されている。基本はモノトーンを基調にしたスマートでモードなファッションで、小物使いがうまいのも特徴。アクセサリ、時計や鞆など、コーディネートプラスαになる物を、スタイルのテイストや自分のキャラクターに合うように上手に取り入れている。無駄な物は付けず、コーディネートに足し引きの感覚が優れていると感じる。

高級な物もそうでない物も、等身大で飾らずにスタイリングできるセンスを持ったエリアだ。



代官山

DAIKANYAMA

代官山は、5地点の中でもファッションが地域に密着しているという特徴があるように感じる。雑貨屋や古着屋で買った、ノーブランドなどの「匿名性」の高い服や小物を身につけている人が多い。スタイルアンケートでも「親からもらった」などと答える人も多く、ファッションが親から子へと受け継がれていることが伺える。これが、クラシックで落ち着いた雰囲気を作り上げているのだろう。

また、人と同じファッションを嫌う人が多く、流行に流されにくい。特定のショップやブランドにも強い拘りを持たず様々なショップをまわって同じブランドが重ならない。原宿とは違う個性がある魅力ある街だ。



銀座

GINZA

銀座は、他の地点とは大きく異なり、全体的には年齢層が若干高めで、上品で落ち着いた雰囲気を持った人が多い。ラグジュアリーブランドのバッグや時計を身につけている人も多いが、それでも全身を高級品で固めている人は少ない。ファストファッションのブランドをMIXして決して嫌らしくならず、ラフさと高級さを同居したスタイルに仕上げている。

しかし、ファストファッションがここ数年に台頭してきた事で、銀座の特徴の一つでもある「セレブ感」ある人達が目立たなくなっている。



2014 SPRING Trend Rankings The Best 5

2014春にも多くのトレンドアイテムが誕生した。こちらではストリートファッションの中で「スタイルアーリーナ」独自のリサーチで印象に残ったトレンドをランキングにして作成。最後には番外編で注目のトピックして1つのブランドに注目してみたので是非ご覧頂きたい。

1位

トレンチコート

基本的にはノッチドカラー(刻みの入った襟)で、胸に箱ポケットと両脇にフラップ付きポケットを付け、ウエストを絞ったシルエットが特徴のコート。昨年にも男性中心にブチブームになったが、今年は更に動きが加速してブームになり、男女共に人気を博したアイテムになった。



軽快でさらっと羽織りやすい

重厚なイメージの強かったトレンチコートだが近年、様変わりしている。例えば着丈は以前、ひざ丈か、それよりも長かったが、現在はお尻をすっぽりと覆う程度の着丈が目立つようになった。また、微妙に変形したデザインも登場し、かつてのトレンチとは一味違う物になっている。

No.1 Color is Beige

ストリートファッションで人気のカラーは定番色の「ベージュ」。というより、今年の春は“ベージュしか見かけない”と言っていい程、溢れていた。

今年の春はカラートレンチが増加すると推測していたのだが、まだまだ絶対数としては少ない。

「春らしい」、「合わせやすい」、「初心者でも扱いやすい」というキーワードとなると、やはりベージュに勝るカラーはないだろう。

ベージュ族が街を席卷！



Trend Rankings 2014 SPRING

2位

白靴下

“見えるソックス”として無地の白靴下が原宿を中心に流行。昔は中高生やリーマンおじさんの愛用品で、「ダサい」とレッテルを貼られたが、一転トレンドアイテムとして注目を浴びている。人気の出始めは約1~2年前からで、当時は男性が中心だった。しかし、今年は男性人気もさることながら、女性にも着用者が増えて地味なファッションアイテムが一躍、主役に躍り出た。



敢えて“ダサさ”を演出

白は清潔感があり、フレッシュさやピュアな印象を与えられ、春夏の季節にもぴったりで需要は高い。忘れ去られていた白無地の靴下が、現在の20代には新鮮に映り、最後の味付けには欠かせないスパイスとなっている。がはっきり言って白靴下自体はオシャレなアイテムではない。それを敢えて履き「ダサさ」を演出するのが、逆に「オシャレ」という感覚が今の若者にはある。



Point of Coordinates

近年はアイビースタイルが再燃し、白靴下がもう一度、注目を浴びた為、トレンドになった。また、女性では膝下丈スカート、タイトスカートなど1950年代風のレトロな装いが流行しており、そのスタイルを強調できるアイテムとして無地の白靴下が注目を集めた。

3位

フレア・サーキュラー スカート

スカートでは「ペンシル・タイトスカート」が引き続き、トレンドになっているが、対抗馬としてブームとなったのがふんわりとした「フレアスカート」。現在、レディースのボトムスではこのツートップが人気を二分し、街を席卷している。
※サーキュラースカートとは、裾を広げるとほぼ円形になるスカートのこと。



Point of Coordinates

ふんわりフレアに合わせるトップスで大切にしなければならないキーワードは「コンパクト」。トップスをインするなら問題ないが、シャツ、カットソーなどをアウトにしてスカートの上に出す場合も丈が短い物をセレクトし、スッキリ見せて全体のバランスを良くする事が重要。



体型カバーしつつフェミニン度UP

人気急上昇中のフレアスカートの長所は、ズバリ“体型カバーできる”ところ。気になる腰回りやヒップラインを目立たなくさせる事ができ、体型が気になる人でも安心して挑戦できる。一方、ペンシルスカートは履く人の体型を選んでしまうところが、ネガティブな要素。ペンシルスカートでハイウエストという着こなしは体のラインが思い切り出てしまい、隠す事ができない。“履く人を選ばない”という点ではフレアスカートに一日の長がある。



4位

ライトブルゾン

冬から春について移行する時期は、トレンチコートの需要は高いが、賞味期限は短い。ただ、夕方以降は肌寒いし、羽織物がないと過ごせないのが春の季節。そんな時に活躍してくれるのが、ライトアウターの「ブルゾン」。「ジャンパー」とも呼ぶが意味は同じ。ジャンパーは英語だが、ブルゾンはフランス語。日本ではブルゾンの方がファッション性が高い認識があって、ジャンパーと呼ぶといかさか、古臭くて「ダサイ」イメージがある。

今年のブルゾンは昨年のオーバーサイズ気味より、どちらかというショート丈でコンパクトな物が主流だった。ショートブルゾンの出色なところは、様々なボトムに対応できる点だろう。履きこなすのが難しいデザイン性のパンツや、ワンピース、フレアやタイトなスカートでも違和感なく合わせられる。



Point of Coordinates

ショート丈だから重心を上
に集められて、スタイル
アップが狙えるのもメリッ
ト。今年のブルゾンは“魔
法のブルゾン”と呼ばれて
いる極めて優秀なアウ
ターで、トレンチよりも長
い期間活躍してくれる必
須アイテムになった。

5位

デニムジャケット

今年はジーンズやデニムシャツ、デニムスカートなど、デニム系アイテムに脚光が浴びているストリートファッション。中でも「デニムジャケット」が引く手あまたで、完全復活を果たした。



Point of Coordinates

デニムジャケットは“カジュアルスタイルの定番”と思われがちだが、実はガーリーなアイテムとも抜群に息が合う。「チュールスカート」や「ふんわりスカート」でも、このアイテムを投入すれば適度なカジュアルさが加わり、甘さをセーブしてくれる。こういったバランスを絶妙に調節できる能力はデニムジャケットならではの。



“脱ダボダボ”コンパクトですっきり

デニムジャケットと言っても様々なシルエットの物があるが、昨年は割とオーバーサイズ気味でメンズライクな物が主流だった。今年は“脱ダボダボ”で、コンパクトですっきりとした物が女子のハートを掴んで虜にした。その理由の一つは、昨年から続くトレンドの「ハイウエスト」や「クロップドトップス」といった旬なアイテムとベストマッチングするから。このトレンドが継続している限り、デニムジャケットも比例して注目し続けるだろう。



番外編 注目トピック

Sneaker

スニーカー戦国時代突入、五天王
No.1は「NIKE」で決まり!?

スニーカーブームで各メーカーの群雄割拠の時代に入っている現在。中でも「NewBalance」人気は相変わらずで、街を見渡すと“多過ぎて履きにくい”と思う人がいる程、続出している。2010年頃までだったら「CONVERSE」が圧倒的な人気を誇っていただろうが、2年程前から立場が逆転した。もし、アンケートを取ったら王者はNewBalanceが君臨する可能性が高い。

しかし、そんなNew Balanceに世代交代を突きつけたのが「NIKE」だ。数シーズン前から男女共にじわじわと人気に火が付き、今季は更にNIKE熱が高まりブレイクした。NIKEの代名詞と言えばエアマックスシリーズで、数多くあるモデルの中でも、着用率が高い。NIKEのエアマックスと言ったら、興味がない人でも“聞いたことがある”っていうくらい、90年代には大ブームを巻き起こしたのだ。



番外編 注目トピック②

肩掛けVS腰巻き

昨年大ブームの肩掛けが弱体化！
頭角を現したのは腰巻きスタイル

昨年の春夏にシャツやカーディガンを肩に掛けて巻くスタイルが大ブームとなった「肩掛けスタイル」。このスタイルをした事がある人は沢山いると思うが、今年は著しく勢いが落ちた。ストリートファッションを席卷した、凄まじいエネルギーは影を潜め、話題も他のファッションアイテムやトレンドカラーに移った。そんなプロデューサー巻きが弱体化している間に、めきめきと頭角を現したのが「腰巻きスタイル」。

今年、肩掛けスタイルに飽きたファッションista達がこぞって取り入れて、腰巻きをメジャー化したのだが、これは海外スナッフでもよく登場する人気のスタイル。腰に巻くだけでシンプルな着こなしに動きが加わる上、体型カバーができる優秀スタイリングだ。ウエスト周りをすっきりと見せる事ができ、ヒップラインも隠せるから着やせ効果が得られる。

腰巻きスタイルで特に活用されるのはチェックシャツだが、柄物を投入すればウエストマーク効果でスタイルにメリハリを出せる。また、大流行しているデニムシャツを巻いてアクセント使いするのもいいだろう。今年に限っては肩掛けではなく、とても頼りがいがある、旬な腰巻きスタイルがオススメだ。

腰巻き

VS

肩掛け



■ JFA 「style-arena」 Report 2014 SPRING

■ 2014年8月発行

■ 解説 企画事業部 情報発信事業
ディレクター 嶋田 有樹

■ 発行 一般財団法人日本ファッション協会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-5-1 神保町須賀ビル7F
Tel 03-3295-1311 Fax 03-3295-3295 Mail info@japanfashion.or.jp